



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 第41号
令和7年1月8日始業式
「第3学期の始業式にあたって伝えたいこと」

四気=川越中学校訓「やる気 ほん気 こん気 げん気」の4つの気！
学校教育目標 『豊かな心』を土台とした「確かに生きる」力の育成のもと

令和6年度 第3学期の『始業式』にあたり・・・(校長として)

- (1) 『皇后盃 第43回全国都道府県対抗駅伝競走大会』と『天皇盃 第30回全国都道府県対抗駅伝競走大会』に川越中学校3年生 研屋 杏虹さん 服部 涼大さん 星野 駿人さんの3名が三重県を代表して選出されました！おめでとう！
- (2) 『思 (おも)う』という漢字一文字に込められた想いから
- (3) 『継続(けいぞく)と深化(しんか)』という考え方について。

令和6年度のまとめとして、そして令和7年度につなぐことを目的として。「仲間と関わり合う」ことを通して一人ひとりが成長を続け、自分と仲間・クラス・学年としての成長を確かめ、新しい学年に向けて川越中学校みんなで、今を精一杯に頑張ろう！そして、川越中学校のみなさんの強みで

【 第3学期 「始業式」での校長のことばより 】

- (1) 『3年生 研屋 杏虹 (けんや あこ) さん 服部 涼大 (はっとり りょうた) さん 星野 駿人 (ほしの はやと) さん』が全国都道府県対抗駅伝競走大会の三重県選手団として選出された快挙をみなさんにお伝えいたします。日々の継続した積み重ねを体現してきたみなさんに拍手です！



今週1月12日(日)に第43回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会が京都市にて開催されます。また、来週の1月19日(日)には、第30回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会が広島県にて開催されます。女子は9区間42,195キロ男子は7区間48キロ

『日常の努力の積み重ね。そして、継続した取り組みの成果として』

の行程で、各都道府県を代表して、中学生から社会人までの各世代で三重を代表する走者がタスキをつなぐ。昨年度の三重県勢の成績は女子38位、男子34位でした。その伝統ある都道府県対抗駅伝競走大会に三重県選手団として川越中学校から3年生3名が選出されました。女子は14名が男子は11名が三重県を代表して選出されました。中でも中学生は女子で4名が、男子でも4名が代表として選ばれた中の3名が川越中学校の生徒であるということが大変名誉なことであり、誇らしいことでもあります。女子の部では10月の全日本実業団対抗女子駅伝(プリンセス駅伝)でユニクロのアンカーをつとめ初優勝に導いた選手や、男子では、1月1日の全日本実業団対抗駅伝優勝メンバーのホンダの選手も選ばれています。他府県には箱根駅伝を走った中心選手も多く名を連ねています。

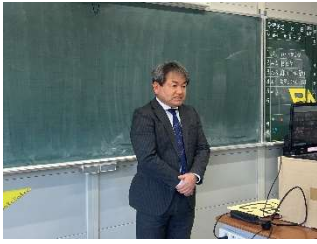
日本中が注目をする大会に3名の川中生が三重県代表選手団に選ばれたこと自体がすばらしいことでもあります。三重県を代表して、川越中学校を代表して、全国の舞台を楽しんで貴重な経験をたくさんして、多くの学びを得て胸を張って帰ってきてくださいね！本当におめでとう！

- (2) 『思 (おも)う』という漢字一文字に込められた想いについて。

『人が人を「思う」1年へ・・・。そして3学期へ』



和歌山県世界遺産の「熊野本宮大社(くまのほんぐうたいしゃ)」の宮司(ぐうじ)さんが、令和7年への願いを込めた大筆書から(約3m四方の大きさ)。令和7年の今年の一文字は、ノーベル平和賞を受賞した「日本原水爆被害者団体協議会(被団協)」の授賞式の報道を見て宮司さんが決めたそうです。その宮司さんの思うこと。『戦争・紛争の絶えない殺伐とした世の中。家族や友人、仲間など大切な方への思いとか、人が人を思う優しさや思いやりは、平和につながる。必ず全世界に平和が訪れることを信じて・・・。日本原水爆被害者団体協議会』



(被団協)のノーベル平和賞授賞からあらためて、国や人種が違っても、相手を思う気持ちが平和につながっていくと思う』。宮司さんが「思」の1文字を祈念し記しました。川越中学校は『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱とした教育活動を進めています。1学期、2学期と積み重ねてきた『関わること』『仲間を大切にすること』を継続しながら、周りの人たちのしんどさや辛さなどに気づける人に、そして、川越中学校の子どもたちみんなが持っているあたたかさや優しさを、人が人を思う心として大切にしたいと思っています。継続と深化を続けることができる川越中学校の子どもたちであってほしいと思います。

(2) 『継続的な努力と深化と改善によって、自分の目標や達成したいことが実現する3学期へ。』

『継続(けいぞく)と深化(しんか)』という考え方について

- ① 深化とは・・・「レベルアップ 掘り下げること 追及する」などのことをいいます。単に物事を変化させることではなく、より良い方向へと変化させること。また、継続的な努力と改善によって自分自身の目標や達成したいことを実現させることをいう。
- ② 継続することによって・・・

川越中学校「学校教育ビジョン」では、教育目標の一つとして、『粘り強くやり切る生徒』という大切にしたい柱があります。よく、こんな言葉を耳にします。「うちの子は、苦手なことだと、すぐにあきらめてしまう」「なかなか我慢することができない」など・・・。

「持続力(粘り強くやり切る力)」の低い子どもは、もともと持続力が低いとか、あきらめがちな性格だからとかではなく『粘り強くやり切った経験』や『最後まであきらめずに頑張った経験』が不足しているからだと考えられます。言い換えれば、『粘り強くやり切った経験』や『最後まであきらめずに頑張った経験』を積み重ねれば、「自分はやり切ることができる」と感じ、『持続力(粘り強くやり切る力)』がついていき、向上させることができると思います。

『川越中学校は先輩の姿から学べる学校です』。3年生のみなさんは、中学校生活も残り38日を残す日数となります。まだまだできることはいっぱいあります。まだまだ成長できるみなさん。絶対にあきらめてはいけません。絶対に今の3年生のみなさんの姿なら絶対にできると思います。頑張る3年生のみなさんの姿は必ず後輩は見ています。3年生の良さをぜひ、後輩にしっかりとつないでほしいと思います。

1・2学期の授業においても、行事においても、部活動においても、このような経験を積み重ねることを大切にしてきました。この積み重ねてきたことを3学期も着実に継続していきたいと思っています。川越中学校のみなさんは、真面目に一生懸命に頑張れる生徒ばかりです。しかし、「粘り強くやりきる力」は、今のみなさんには絶対に必要な力であり、自分を磨き、高めていく上においても必須な力だと思っています。

昨日1月8日(水)から、川越中学校の教職員に新たに『生活支援員さん』が加わります。6組を中心に、子どもたちの生活にかかわる支援をしていただきます。

「伊藤 哲(いとう さとし)」先生です。

昨日発行した「生活支援員の着任のあいさつ」にて、紹介させていただいています。片山 裕紀子 生活支援員と大和 亜希子 生活支援員と合わせて3名体制で3学期をスタートいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。



昨日の3学期の始業式が終了した後、新たに生活支援員として着任いたしました「伊藤 哲(いとう さとし)」先生が、オンラインにて、自己紹介をしていただきました。生活支援員としての勤務は初めてでありますし、3学期からの勤務となりますが、本校の教職員としてともに協力をしながら6組の子どもたちを中心として、生活全般にかかわる支援をしていただきます。全校のみなさんにオンラインではありますが、あたたかく優しい口調で自己紹介をしていただきました。印象に残っている言葉は、「勉強など分からないことや人間関係の心配ごとなどなんでも話(相談)をしてくだ

さいね(皆さんの個人情報には必ず守ります)」。6組の子どもたちはもちろんのこと、他のクラスや学年のみなさんもぜひ声をかけてくださいね。」早々に子どもたちとコミュニケーションを取っている場面も見受けられました。